

## 生涯学習のあり方の検討状況について

「第 8 期（平成 29～30 年度）生涯学習審議会答申（平成 31 年 2 月）」に基づく、「公民館の今後のあり方（最終案）（令和 2 年 1 月）」を示し、公共施設の将来像（令和 4 年 4 月）」を策定したことから、第 11 期（令和 5～6 年度）宇治市生涯学習審議会において「生涯学習のあり方」を協議しており、この間の検討状況を報告いたします。

### 1. 開催状況

#### 第 1 回審議会 7 月 25 日

・「第 8 期（平成 29～30 年度）生涯学習審議会答申（平成 31 年 2 月）」、「公民館の今後のあり方（最終案）（令和 2 年 1 月）」、「公共施設の将来像（令和 4 年 4 月）」を踏まえた、今後の公共施設で行っていく生涯学習のあり方について協議

※第 2 回審議会（9 月 1 日）では生涯学習のあり方を協議事項としていない。

#### 第 3 回審議会 10 月 12 日、第 4 回審議会 11 月 30 日

・「第 8 期生涯学習審議会答申」に示された生涯学習のビジョンを再度確認し、集約化、複合・多機能化された後の公共施設において生涯学習の機会を充足するために必要なことについて協議

### 2. この間の委員の主な意見

- ・答申、「公民館の今後のあり方」、「公共施設の将来像」の方向性は変わらない。3つを融合したゴールを目指すが良い。
- ・今までの生涯学習活動は個室内で完結することが多かった。今後はオープンスペースで活動が外に見えることが大切だ。活気ある姿を見た人が誘われる仕掛けが必要。
- ・公民館のあり方も時代と共に変わる必要があること、市が複合・多機能化を検討していることをしっかり説明しなければいけない。
- ・公民館、コミセン、福祉センターなど施設の利用実態が重なってきている。それらを集約化した施設が宇治市内に何か所かあれば良い。
- ・今まで公民館等を利用していなかった子育て世代、若年層のニーズに応えるために、多世代交流の場となるべき。
- ・図書館と防災など分野部局を超えた生涯学習事業のコラボが広がると良い。生涯学習課が各課の出前講座（健康体操等）の窓口になってコーディネートしてはどうか。
- ・複合化で活動スペースが小さくなることに不安に思う人が一定存在する。行政が活動スペースの紹介や、やりたいことの実現を支援すれば不安がやわらぐのでは。

・審議会での議論は公民館での活動を否定するものではない。これまで公民館で続けてこられた活動も含めて、生涯にわたる学びの場の確保について議論するものだ。

### 3. 今後の予定

生涯学習審議会および教育委員会会議での意見を踏まえ、今後の生涯学習のあり方をまとめる。

#### <参考>第8期答申一部抜粋

次世代を担う若者から、知識・経験を継承する立場の高齢者まで、あらゆる年代の市民を、市の生涯学習推進に巻き込んでいく仕組みを構築する。そして、その中での活動が、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携することで、各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれるのではないかと。つまり、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していくことで、世代を超えた地域交流の促進や、市民によるまちの活性化につながるような生涯学習が推進できるものとなる。

#### 公民館の今後のあり方（最終案）一部抜粋

これまで本市の生涯学習推進の歴史において積み重ねてきた成果を活かすとともに、必要な生涯学習の場を確保しながら、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携する。そして、各々が専門性を活かしながら、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していく。また、市民がまちづくりについて考え自ら行動できるよう、多種多様な課題について学び解決できる力を支援するため、人材育成や社会還元の仕組みをより効果的に活用し、市民活動を活性化する。

#### 公共施設の将来像

